

## 式 辞

寒暖を繰り返しながら日ごとに暖かさが増し、ここ椿が丘にも春の息吹を感じる今日のよき日、ご来賓にPTA会長 多郎畑 誠 様はじめ多くの来賓の皆様を三年ぶりにお迎えし、令和四年度島根県立浜田商業高等学校の卒業証書授与式を挙行できますことを、ここに、衷心より感謝申し上げます。

さて、ただ今卒業証書を授与された商業科27名、情報処理科39名の皆さん、卒業おめでとうございます。教職員、在校生一同、心より皆さんの卒業をお祝いいたします。また、保護者の皆様におかれましては、平素より本校の教育活動にご理解とご協力いただき感謝申し上げます。これまでの数々のご苦勞を推察し感慨もひとしおかと拝察いたします。本日のご卒業を心よりお慶び申し上げます。

思い返せば卒業生の皆さんは、在学中の3年間新型コロナウイルスが猛威を振るうなかで高校生活を送りました。入学当時から学校での活動が制限され学校は休校となり、新しい仲間と会えない日が続き、学校行事や部活動にも大きな影響を受けました。いろいろな学校行事も中止や縮小となり、悔しい思いもしたことと思います。そのような中でも、皆さんはくじけることなく、浜商の校訓「開拓者精神に徹し、気魄と情熱に燃えよ」の言葉どおり日々の学習に部活動に励み、学園祭や浜商デパートは縮小しながらもほぼすべての行事を実施してきました。

そのように頑張った皆さんですが、気の毒だと思うことが一つあります。浜商の素晴らしい校歌を、声を出して歌うことができなかったことです。浜商校歌の作曲者はかの有名な 團 伊玖磨氏です。オペラ、交響曲、歌曲などのクラシック音楽のほか、童謡、映画音楽、放送音楽と幅広いジャンルの作曲を手がけた作曲家です。全国の幼稚園から大学まで、200を超える校歌を作曲しておられますが、島根県で作曲されたのは本校とお隣の浜田高校だけです。浜商校歌のメロディーは聴いていると元気が湧いてきて心に残ります。式の最後に校歌が流れますので、浜商生最後の校歌をしっかりと味わってほしいと思います。歌詞の作者は 金築 勇逸 氏です。完成までに初代校長と何度もやりとりを重ね、苦心の末、希望溢れる素晴らしい歌詞ができあがった経緯が「創立十周年記念誌」に記されています。歌詞には豊かな自然が登場しますが、2番に「われらここに 劫初より 造り営む 殿堂に 共に黄金の いざ 釘ひとつ 打ちて残さん」という歌詞があります。これは歌人、与謝野晶子の歌「劫初より 造り営む殿堂に われも黄金の 釘一つ打つ」から引用したものです。この歌の意味は「世の初めから人類が営々として築きあげてきた文化的殿堂があるとすれば、自分も釘一本なりとそれに打ち込み、その営みにあずかりたい、

しかし、それは錆びた釘ではなく、黄金の釘でありたい」という意味だそうです。人がこの世にうまれたかぎりには、何か自分の存在を残したい、自分は無用の存在でなく、自分の人生は自分なりに意義があったと振り返りたい。そんな心境が込められています。皆さんはこれから、それぞれの志をもって「黄金の釘」を打って行ってほしいと思います。

卒業式という節目にあたり、卒業生の皆さんにもう一つお話しします。皆さんは竹という植物を知っていると思います。島根県は竹林の多い県に数えられるようで、ここ浜田市にも竹が迫ると書く竹迫町があります。「松竹梅」のようにめでたいものの象徴として使われている竹ですが、植物としての竹は生命力に溢れた植物で、1日に30cmも生長します。なぜこれほどまでに生長が早いかというと、成長する前に地下茎に十分な栄養を蓄えているからなのです。卒業生の皆さんは、コロナ禍のこの3年間、本校において数多くの学びを積み重ね十分に力を蓄えてきました。これから素晴らしい成長を見せてくれると期待しています。どうか自信を持ってください。

さらに、竹の生長が早いのにはもう一つ理由があります。竹の本体には、一定の間隔で「節」構造があります。竹は節を持っているため内部を空洞にすることを可能にし、高い強度と柔軟性を獲得することでアジアを中心に分布を広げることができました。しかし、竹の節の役割は高い強度と柔軟性だけではありません。一般の植物の場合、成長点は茎の先端に一カ所だけ存在するのに対し、竹はそれぞれの節ごとに成長点があり、それぞれの節で細胞分裂をするため一気に伸びていけるのです。「雨後の筍」という諺のとおりです。卒業生の皆さん、高校卒業は皆さんにとって大きな節目です。これから皆さんは、新しい環境のなかで生活を始めることとなります。どうかやる気を前面に出して頑張り、一気に伸びて行ってください。

先日講演会に来られた講師の方の言葉です。「人生に失敗はありません。練習です。人生は壮大な実験です。すべての体験がその人の人生を作ります。」卒業生の皆さん、どうか失敗を恐れずこれからの新しい生活を押し進んでください。歩むのではなく自ら押し進んでください。自分の人生を生きてください。自分の責任で生きてください。悩みがあるのは当たり前です。それは生きている証、自分を見つめている証拠です。逆境もよし、順境もよしです。肝心なのはその与えられた境遇を素直に生き抜くこと。そのとき忘れてはならないのは感謝の心です。感謝の心が高まれば高まるほど、それに比例して幸福感は高まっていきます。

皆さんは将来きっと、なりたい自分になることができます。皆さんの今後に幸多からんことを願い、式辞といたします。

令和5年3月1日

島根県立浜田商業高等学校長 平野 謙二